

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」教育を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育み、目的を持って豊かな生活を送ることができる人材を育成する。

### 2 中期的目標

#### 1 エンパワメントスクールの教育内容の充実

P D C A サイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」の肯定的な意見の割合 70%以上を維持しつつ、2021 年度には 75%とする。(H30 63.4%)  
「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見の割合 50%以上を維持しつつ、2021 年度には 60%とする。(H30 55.7%)とする。

ウ 4つの系列科目の内容の充実

系列の科目に関する授業アンケートについて、全ての項目において、3.1以上とする。

#### 2 3つの力(新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力)を育む。

##### (1) 学習活動の充実

ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。<H31 3.20、2020 3.20、2021 3.20> (H30 年度 3.19) また、授業アンケート「生徒意識 1」及び「生徒意識 2」の平均値 3.0 以上を維持する。(H30 年度 3.08、3.10)

イ 4つのコース(海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際)の内容を、より魅力的なものにする。

ウ 特色ある学校設定の授業を開講する。

##### (2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

平成 31 年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する。また、文化祭事後アンケートを 70%以上にする。<H31 65%、2020 70%、2021 70%> 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見 80%以上を維持する。

##### (3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を 50%以下にする。(平成 30 年度 47.2% 平成 29 年度 49.3%)

イ 人権教育の推進

生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 50%にする。(平成 30 年度 52.5% 平成 29 年度 47.2%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

生徒向け学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見について 50%以上を維持し、2021 年度において 60%以上にする。(平成 30 年度 55.7% 平成 29 年度 56.4%)とする。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を 10 人以下にする。(平成 30 年度卒業生のうち未決定者 12 人)

オ 国際感覚の育成

台湾の高校との交流や国際理解ワークショップ、及びオーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を定着させる。

##### (4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出 100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。<H31 3.18、2020 3.20、2021 3.20> (平成 30 年度 3.17)

ウ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 50%にする。(平成 30 年度 52.5% 平成 29 年度 47.2%)

エ 支援教育体制の整備

##### (5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

### 3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。 モデルリーダーや外部講師による教員研修を年間 10 回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。

### 4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する。

ウ 学校の取組みを発信する

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>寄り添う生徒指導を更なる充実を図る</p> <p>いじめに関する項目以外の項目において、生徒の肯定的な回答が増加している。遅刻指導や頭髪指導に対する肯定的な評価とあわせて、学校におけるきまりが自分のためになっていると考えている生徒の割合が全学年で増加している。一方で、多様な生徒の増加に伴い、より一層学校に対する満足度の向上に向けたきめ細やかな支援を行っていく必要がある。</p> <p>保護者の評価は、ほぼ横ばいとなっている。学校行事や P T A 活動への</p>	<p>第 1 回 5 月 23 日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後の定着率の課題としてコミュニケーション能力の向上を図っては?</li> <li>・すべての部屋や設備を教育相談室のようにできればよい。(オランダ ロッテルダムの多言語の高校を写真で例示していただいた)</li> <li>・「岬に来たらこんなことができる」ということを中学校の先生にわかってもらえるように</li> <li>・生徒を集めるためには、先生から言われてやらなければならない授業よりも、家に帰ってきて「今日、学校がおもしろかった。」と言われるような授業をしてほしい。</li> </ul>

<p>参加が依然として低い、保護者に対して積極的に情報を提供していく必要がある。</p> <p>授業改善の取組みの深化を図る</p> <p>「授業をよりよく改善しようと、意欲的に取り組んでいる」において、肯定的な評価が高い。ICT機器の活用も進んでおり、「わかる授業」づくりの進化を実感できていると考えている。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」における肯定的な評価も高く教員間の意見交換が活発であることが生徒の肯定的な評価の増加につながったものと考えられる。</p> <p>教職員の学校運営の参画</p> <p>教職員の意見が学校運営に反映されている項目の評価が低い。教職員の意見を反映できる組織づくりを行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には日本語を学びたい、日本の人と関わりたいという留学生も多く、交流してはどうか？</li> <li>・山海人PJで古墳の清掃をしてはどうか。古墳の中に入れることはPRになる。</li> </ul> <p>第2回 10月9日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報道関係、非常におもしろくて良い取組みだった。受験者増につながればよいと思う。</li> <li>・高校生が全国的に少なく、新しい戦略が必要。</li> <li>・希望の持てる新しい取組みが多い。がんばって岬高校から立派な人物を輩出してほしい。</li> <li>・和歌山の南高梅のように、学校名の入った商品ができるとよい。</li> <li>・発達障がい特化した取組みは、ニーズに応じた支援が特色として出るとよい。</li> <li>・保護者の口コミ等も必要。PTAとしても協力していきたい。</li> <li>・楽しい取組みがあってよい。生徒に「楽しい」と言ってもらえる学校であってほしい。</li> <li>・入学試験でもカードゲームでグループワークをさせる大学がある。ぜひ継続してほしい。</li> </ul> <p>第3回 1月29日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数クラスは中学校の期待が大きい。ぜひ成果を上げてほしいと思う。</li> <li>・人権教育をより推進するために、目標値が50%では低い。部落差別問題も積極的に取り組んでもらいたい。</li> <li>・オーストラリアの海外研修の取組みはよい。費用を抑えて、より魅力的な研修を続けてほしい。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクールの教育内容の充実	PDCAサイクルで組織的に取り組む。	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を月に1回開催する また、次年度以降の選考科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ70%、50%以上を維持するとともに、75%、60%に近づける(平成30年度63.9%、55.7%)	ア「国数英の授業は毎日30分あるので学力がつくと思う。」72.7%( ) 「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」64.0%( ) イ2回実施( )
	イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。	イ 教育庁主催の会議に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする。	イ 校内研修2回	ウ平均 3.18( )
	ウ 系列科目の内容の充実	ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う。	ウ 授業アンケートの全ての項目において、3.1以上とする	
2(1) 学習活動の充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。	ア 学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める 身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける。 考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける。 具体的にほめるという5項目の内容を教員が目標とする 授業力向上のためのPBLチームを結成し、校内全体の取組みを進める 生徒が自主的に学習できる環境整備や取組みを行う。	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.18とする。(平成30年度3.17) また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上を維持する。(平成30年度3.08、3.09)	ア「授業展開」の項目において、平均が3.18( ) 生徒意識1( ) (3.14 3.13) 生徒意識2( ) (3.15、3.13)
	イ 4つのコース(海洋 情報 福祉保育スポーツ、英語国際)の内容を生徒にとって、より魅力的なものにする。	イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する	イ 各コースで新しい取組みを最低1つ行う	イSUP、水中ドローン、介護資格取得、国際交流を実施( )
	ウ 特色ある学校設定の授業を開講	ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な授業を開講	ウ 10講座以上を新たに開講	ウ30講座を開講し、「自己探求」で開講( )
2(2) 特別種別の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する。 広報誌等に種別掲載してもらおうなど、地域等への発信について検討する。	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持するとともに、文化祭では、60%とする。 ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りにおける肯定意見を80%以上にする。 ・広報誌などへの掲載回数1回以上。	体育祭 70%( ) 文化祭 72%( ) 国際交流 100%( ) (終了後の感想より評価) 新聞掲載1回、TV報道4回( )

府立岬高等学校

<p>2(3) キャリア教育の充実</p>	<p>ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 オ 国際感覚の育成</p>	<p>ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHR や総合的な学習の時間に、人権課題について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする ウ エンパワメントタイムの内容を他学年の LHR や総合的な学習の時間で実施する。 エ 1 年次から進路実現を目標とした HR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 オ 台湾の高校との交流を実施し、交流内容の充実を図る。テレビ会議の開催日程を早期に決定し、準備期間を確保するとともに、多数の生徒の参加を促す</p>	<p>ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させ、これまでの登下校時のあいさつ運動や通学路やその周辺での指導を継続、自尊感情の観点を取り入れる。 生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を 50%以下にする(平成 30 年度 47.2%) イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を 50%以上にする。(平成 30 年度 52.5%) エ 卒業時における進路未決定者を 10 人以下にする。 オ テレビ会議の企画段階から生徒が参加し、当日の進行も担当する</p>	<p>ア 「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う。」40.7% ( ) イ・ウ 「人権を大切にするための学習が行われている。」62.5% ( ) エ 未定者 6 名(3 月末時点)(○) オ 台湾の高校との交流は中止となったが、オーストラリアの高校とのテレビ会議を実施した。オーストラリア研修に生徒 3 人が参加 ( )</p>
<p>2(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実</p>	<p>ア 高校生活支援カードの活用 イ 授業のユニバーサルデザイン化 ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。 エ 支援教育体制の充実</p>	<p>ア 入学時に新入生全員に作成させ、生徒の状況を年度当初に共有 配慮等が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成 イ 支援教育の観点により、2(1)の授業づくりに取り組む ウ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。(再掲) エ 国事業での研究成果を踏まえ、個々の特性に応じた能力を引き出すために、野外活動やスポーツ等の体験的な学習を通じた余暇の需実等、ライフスキル習得の取組みを進める</p>	<p>ア 高校生活支援カードの提出 100%を維持 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成 イ 2(3)イ・ウと同じ エ 配慮等が必要な生徒に対して、体験的な学習の機会として、地域資源等を活用した野外活動等を年に 2 回以上開催する。</p>	<p>ア 提出率 100% ( ) 個別の教育支援計画作成 ( ) エ 地域の団体と連携し、異なる年齢集団の中で運動をすることで、コミュニケーションや体幹を鍛える取組みを 10 回開催した。( )</p>
<p>2(5) 通級指導教室の充実</p>	<p>ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。</p>	<p>ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う。 通級指導室の環境整備を行う。</p>	<p>ア 入級時と学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化について評価する。 環境を活かした自立活動を実施 発達障がい特性に応じた環境整備を行う。</p>	<p>ア すべての入学生に対し自尊感情アンケートを実施 ( ) すべての配布物にルビウチを実施 ( )</p>
<p>3 人材の育成と管理</p>	<p>ア 教員研修の充実 イ 働き方改革の推進</p>	<p>ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う イ 業務の効率化を図る</p>	<p>ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間 10 回実施する (H30 18 回 H29 17 回) イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化と委員会等の統廃合を図る</p>	<p>ア 20 回 ( ) 新転任オリエンテーション、校内初任研 3 回、授業改善 3 回、支援教育 5 回、岬人研フィールドワーク、人権講演、救命救急、教育相談、通級関連 30 回以上 イ メールでの資料配布、連絡事項の周知と支援関係の委員会をパスファインダー委員会に統合 ( )</p>
<p>4 地域連携と広報活動</p>	<p>ア 地域の小学校への点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する イ 地域の人たちが学ぶ場を継続的に確保する ウ 学校の取組みを発信していく</p>	<p>ア 取組みを継続する イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する ウ 支援教育や特色ある取組みの広報を行う</p>	<p>ア 取組みを継続する。 イ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する ウ パンフレットの作成と通級指導教室の成果の発表を行う</p>	<p>ア 点字出前授業 ( ) 車いすボランティア ( ) イ 1 団体以上参加 ( ) ウ 8 月に府民対象にフォーラムを開催 ( )</p>